
小さな運命共同体

哀loveコナン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さな運命共同体

【Nコード】

N4767Z

【作者名】

哀loveコナン

【あらすじ】

短編集として書きたかったんですが、あまりにも長くなり過ぎて…連載にしました
予定していたものプラス少し加えて、コ哀小説を今度は連載していきます。

医療全く無視をしたコ哀です。ネタバレになるので、どっちなかで言っておきます。どっちなかの死ネタになりますので、ご注意ください読んでください。

前作見ていただいた方はわかると思いますが、またあの優しい先生が出てきます。

コ哀を好きな人にとっては怒られるかもしれませんが、嫌な人はここでスルーしてください。

そして、今回は一話一話が短いと思います…前作と比べると…それと、あくまでコ哀なので、新一や新一の両親などの登場はありません…服部も（今の段階では）出てこないと思います。

それを含め、大丈夫な方のみ…閲覧お願いします。

プロローグ／運命…それは…変えたいもの

運命……それは、一人一人が神様によって授けられたもの…。

運命……それは、自分自身でどうにでも変える事が出来るもの…。

きっと、これもまた…”運命”なのかもしれない…。

”工藤君…私は貴方に…何もしてあげられないのよ…”

”お前は生きてくれてるじゃねーか…それだけで充分だよ…”

その言葉を交わした君と僕との間には…何があったんだらう？…その言葉…ちゃんと君に伝わったのかな…いつだって、励ましていたはずだったのに…。

でもこれが…君と僕の…最後の物語になってしまったんだね…。

君の運命を僕は変える事が出来たのかな…本当に君は…それで幸せになれたのかな…。

でも、君にあんな運命背負わせたくなかったんだ…だから、君の運命を…僕が変えてあげたかったんだ…。

だから、お願い…僕がした事、許して欲しいんだ…。

そして…生きる事を諦めないで…お願いだから…なあ、灰原!!

プロローグく運命…それは…変えたいもの（後書き）

始まりました。

プロローグなので今回は短いです…。

読んでもらって嬉しいです。

今回は不定期になりますが、よろしく願いします。

時間があれば、それほどあかず、投稿できるとおもいます。

また、今回もヒントを残して、

次に進みたいと思います。

次回ヒント

準備したい事

次回、またよろしく願いします。

診察結果

ある平日の朝…。

とある病院に来ていたコナンは、診察室で…蘭と小五郎が見守る中…医師によって、胸に聴診器を当てられていた…。

「うん…大丈夫だね。順調、順調…」

コナンの胸に当てられていた聴診器を離しながら、今度はコナンの頭に手を当てて微笑む先生の名は坂井医師…。

コナンが最も慕っている…コナンの主治医でもあった…。

「コナン君、こないだの話なんだけど…そろそろ、準備したいんだ…返事聞かせてもらえるかい？」

「まだ、大丈夫だよ…」

そう話すコナンは何となく、淋しそうな表情を浮かべて俯いていた…。その様子に見兼ねた坂井医師は、コナンに言った。

「…ねえ、コナン君…先生、ちょっと毛利さんと蘭さんに話がしたいから…コナン君は先に戻っていてもらえるかい？」

「僕だけ…内緒の話？」

不安な面持ちで坂井医師の顔を覗き込むコナンを見た坂井医師は、につこり笑いながら…コナンの頭を撫でながら言った…。

「違うよ…コナン君が納得してもらえるように…相談しなきゃだか

ら…それに、早くしないと取り返しのつかない事になっちゃうからね…」
「…うん」

突きつけられた自分の現実には、コナンは納得したくなくても、頷くしかなかった…。

そんなコナンを見た蘭はコナンの顔を覗き込んで、諭すかの様に話出した…。

「コナン君、大丈夫よ…すぐ行くから、病室でちゃんと待ってて…」

そう言われたコナンが診察室を後にした後、坂井医師は小五郎と蘭に話を始めた…。

「先日もお話ししましたが…コナン君の手術の準備をそろそろ取り掛かりたいと思うんですが…」

そう話す坂井医師だったが、コナンの事を思うあまり…自然と目が泳いでいた…。

「手術自体は、そう難しくありませんが…コナン君が手術を拒んで今の状況では、こちらとしても手術を行えないんです…ですから、毛利さん達から説得してもらえませんか？」

コナンに病気の事や手術の事を話してから、コナンがずっと手術を拒み続けている事を坂井医師は心配していた…。

でももう、時間が限られている…そんなコナンの手術に、坂井医師は少しばかりの焦りを感じていた…。

「でも、先生…私達が言っても…コナン君、分かってくれないと思
うんです…だから、先生から話してもらえるといいんですけど…
？」

蘭はコナンの性格を分かっていた…蘭達が手術の事を話しても”大
丈夫”と言って、聞く耳を持たないかもしれないから…。

だから、先生からもう一度言われた方が分かってくれれば、確信し
ていた…。

診察結果（後書き）

今晚わW W

今日は変な時間に投稿ですW W

一応、ストックが溜まって来たので

しばらくは毎日投稿になるとおもいますW W

次回ヒント

哀ピンチ

次回もお楽しみに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4767z/>

小さな運命共同体

2011年12月29日04時49分発行